

第35回 委員会

改正タクシー特措法の厳格な履行を求める

これ以上格差拡大は絶対許さない

(富山地連)

2014年2月24日 富山地連が富山市内で第35回委員会を開きました。

富山地連（石橋剛執行委員長）は、さる2月24日、市内に於いて「第35回委員会」を開催しました。



委員会は、今 14 春闘に臨む上で、春闘方針を決定し全体での意志統一をはかることを目的とし、執行部及び各加盟単組代表者委員を合わせ 22 名が出席し始まりました。冒頭、主催者代表として演壇に立った石橋・全自交富山地連執行委員長は、『既に新しいタク特措法が施行され運用されている。これまで、減車がバラバラに行われ、安売り運賃も排除出来ずにいた。今回の法改正により大きく変わったところは、公定幅運賃が定められること。今後、事業者・労働者・利用者・関係行政機関などの各代表者で構成される協議会の中で少しずつ明らかになってくるが、法律の趣旨をしっかりと事業者に問い履行させていかなければならない』、また、全自交全体での組織強化についても、『年々、組合員数が減少し 35 都道府県における空白県が危惧される。

組合員を増やす努力、加盟組織を増やす努力をしていかないと、国会にハイタク労働者の声が届かなくなり、経営者へ立ち向かう体力の低下にもつながっていく。私たちは改めて、今 14 春闘を通して、産業別統一闘争を再認識し、お互いの努力によってハイタク労働者が一緒になって闘っていく重要性を唱えていかなければならない』と挨拶されました。

議事では、富山地連に於ける春闘方針を満場一致で採択、春闘アピール案を全体の拍手で確認した後、全ての仲間が 2014 春闘に総決起し、要求貫徹に向け団結してガンバローと三唱し委員会は成功裡に終了しました。